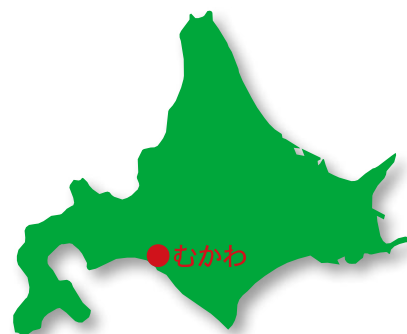




笑顔大笑!!



-
- むかわ黒毛和種共進会を開催…2～3
 - ブロッコリー収穫順調…4
 - 令和8年 理事会議案一覧…4
 - JAむかわ各地域で田植え終了…5
 - 青年部が田植え体験授業を支援…6～7
 - 「2026 農協まつり」開催お知らせ…8
 - ほうれん草共同選果順調…8
 - キラリ人物 奥竜 晟さん…9
 - 砺波市のチューリップ満開に…10
 - 女性部介護用カット布寄贈…11
 - 女性部花壇に花植え…11
 - 小学生JAむかわ施設見学…12
 - ホクレン新入職員実習受け入れ…13
 - スターチス共同選花…14
 - スターチスほ場巡回…14
 - 社会福祉協議会に介護用品贈呈…15
 - JAむかわ緊急時のご連絡先…15
-



編集・発行：令和8年7月1日
鵜川農業協同組合

〒054-0023
 勇払郡むかわ町末広2丁目124番地
 Tel 0145-42-2611
 E-Mail jamukawa@sage.ocn.ne.jp
 ホームページアドレス <http://www.ja-mukawa.or.jp/>

経産の部



準最高位賞4部の「かとう3725号」

準最高位賞にKファーム

最高位賞・準最高位賞以外の1席



宇南山さんのしじみ号とあさり号



宮下さんのすもも号



(株)Kファームのみるきい号

令和8年度むかわ黒毛和種共進会入賞牛

名誉賞	出品区分	牛名号	出品者名
最高位賞	4部	しじみ	宇南山知也
準最高位賞	4部	かとう3725	(株)Kファーム

区分	順位	牛名号	出品者名
4部	1位	しじみ	宇南山知也
	2位	ひろ4347	野脇広夢
	3位	みな	長門達也
5部	1位	みるきい	(株)Kファーム
	2位	しろみ	田浦悟
	3位	みなみ	伊藤正人
6部	1位	すもも	宮下涼一
	2位	かとう3729	(株)Kファーム
	3位	かつきん	松浦治記
7部	1位	かとう3725	(株)Kファーム
	2位	かとう3718	(株)Kファーム
	3位	ひろ4503	野脇広夢
2部	1位	しじみ	宇南山知也
		あさり	

各部門の入賞者は下記の通り。
5部は(株)Kファームの「みるきい」号。6部は宮下涼一さんの「すもも」号。2部の母系群は宇南山知也さんの「しじみ」号と「あさり」号が入賞した。
共進会終了後、鶴川家畜市場内の特設祭壇前で獣魂祭を行った。鶴川神社の三上剛宮司が御魂に祝詞を捧げ、関係者代表者と共に玉串を捧げた。



参拝をする長門JA組合長

未経産の部



最高位賞4部の宇南山さんと「しじみ号」

最高位賞に宇南山さん

鶴川和牛改良組合主催の「むかわ黒毛和種共進会」が6月3日、汐見の鶴川家畜市場で行われた。開会式で主催者を代表して鎌田拓弥和牛改良組合長が「今共進会を機に2027年の全国共進会に向け、組合員が協力して取り組んでいきたい」と挨拶した。来賓のむかわ町榎丸直士町長は「開催を祝すとともに全共にも期待しています」と挨拶した。JAむかわ長門宏市組合長は「依然厳しい状況が続いていますが、今共進会を機にさらなるむかわ牛の評価を高めていただきたい」と挨拶した。審査員は一般社団法人北海道酪農畜産協会家畜登録改良部改良指導課の白澤範主幹が務めた。

審査は全道大会にあわせ、第4部の経産の1産以上から審査を開始し、第5部の11ヶ月から14ヶ月未満、第6部の未経産14ヶ月、17ヶ月未満、第7部の未経産17ヶ月、20ヶ月未満に厳選した22頭が出陳した。白澤審査員は入賞牛の序列を決め、講評と今後の共進会に向け適格な助言をした。

各部門1位から選ばれた最高位賞には第4部の宇南山知也さんの「しじみ」号が、準最高位賞には(株)Kファームの「かとう3725」号が受賞した。宇南山さんは「最高位賞は嬉しいです。次の大会に向けて飼養管理など十分に行い、賞に報いたいと思います」と述べた。

審査講評で白澤審査委員は、むかわ牛の品位と資質の高さを評価し「今後の日胆共進会や全道共進会に向けて仕上げてほしい」と期待を込めた。最高位賞には北海道胆振総合振興局やむかわ町、JAむかわ、ホクレン、鶴川和牛改良組合などから賞状と記念品が贈られた。

むかわ黒毛和種共進会開催

品位と資質の高さ評価 今後に期待

6月3日



表彰状を受け取る(株)Kファームの加藤さん



表彰状を受け取る宇南山さん

6月8日

ブロッコリー収穫順調

販売目標は15億円

蔬菜園芸振興会ブロッコリー部会（須藤正人部会長）は、今年度、販売額15億6000万円をめざし、5月30日、第1回目の収穫が始まった。

（内海アグリファームでは、6月8日から収穫を始めた。11日は曙地区のほ場で特定技能実習生ら17名が収穫作業を行っていた。内海久俊代表は「雨が少なく苦勞したが品質、食味ともまずまずの出来になった」と話した。



収穫しながら収納コンテナに入れていく

収穫作業は朝8時から夕方4時頃迄で、2から3人が一組となり、収穫したブロッコリーの葉を切り、荷台コンテナに収納する。ブロッコリーは花蕾の生育が不揃いで、同時に収穫できないため、出荷規格に合わせて収穫作業を行う。

（内海アグリファームでも同一ほ場で2から3回に分けて収穫作業をする。収穫したブロッコリーは移動式荷台コンテナが満杯になるまで積み上げ、その後、20玉を小コンテナに

移し替え調整する。収穫できる時期によるが、最盛期1日に出荷するコンテナ数は3000をゆうに超える。

収穫したブロッコリーは鮮度を落とさないように集荷業者が都度集荷していく。（内海アグリファームの今年度の作付面積は40畝（延べ面積）で、切れ目のない定植と栽培管理を行い、霜の降るまで収穫をつづける。

ブロッコリー部会は昨年度10法人と8名で14億4000万円を販売（粗原）した。2016年から小笠原正実前部会長の熱意と情熱でスタートしたブロッコリー栽培は、JAむかわ蔬菜園芸振興会部会の一番手に躍進した。



収穫後規定数をコンテナに入れる

令和8年 理事会議案一覧

第4回理事会議案書

日時 令和8年4月10日（金）午後1時30分

- 【報告事項】
- 3月末事業進捗状況について

【付議事項】

- 議案第1号 「従業員就業中災害補償規程」の改正について
- 議案第2号 役員報酬について
- 議案第3号 固定資産の取得について
- LPガスメーター器及びLPガス自動切替調整器更新
 - 8号倉庫舗装工事
 - エンジンヒンジフォークリフト3・0t

第5回理事会議案書

日時 令和8年5月18日（月）午後1時30分

【報告事項】

- 組合員の異動について
- 4月主要行事について
- 4月末事業進捗状況について
- 4月末農畜産物販売実績について
- 部門委員会開催について
- 第2回経済部門委員会 5月13日（水）「疑わしい取引」及び「反社会的勢力排除対応管理先対応状況」報告について
- 資材農機センター外壁塗装工事について
- 春闘確認書の締結について
- 令和7年度財務モニタリングの実施について（監査報告含む）
- 令和7年度体制整備モニタリングの実施について（監査報告含む）
- 令和7年度「JAバンク戦略シート」の策定について

ついて

- 行政庁の報告徴求命令に基づく「マネー・ローナダリング調査」について
- 令和8年3月末マネロン等の防止にかかる対応状況について
- 令和7年度総対的なリスク量について

【付議事項】

- 議案第1号 ディスクロジャー誌の作成について
- 議案第2号 役員賠償責任保険の更新について
- 議案第3号 令和8年度共同計算基本要領に基づく重要事項の決定について
- 議案第4号 固定資産の取得について
- 資材・農機センター倉庫屋根修繕工事

JAむかわの今年の水張り面積は944畝で自主米や加工米合わせて販売額15億6000万円を見込んでいます。



密苗マット

田植え順調に終盤

豊穡の秋を期待して



順調に植え付けする森光輝さん

JAむかわの各地域で5月中旬から始まった田植えは、5月末ではほぼ終了する。期間中は寒い日や雨の日もあつたが順調に植え付けが進んだ。

田浦地区の森光輝さんは、29日から田植えを始め、「おぼろづき」と「きらら397」8畝を作付けた。苗取りや運搬など、7名で1日約2畝を植え付けた。

森さんでは密苗を使用。密苗は通常の苗に比べて苗箱あたりの種籾を倍にし、高密度で苗を育てるので箱数も半減し、作業の省力化やコスト削減になる。育苗器を使用するので短期間で均一な芽揃いができ、田までの苗の運搬や植え付け作業の労力軽減につながるが、苗箱更新で経費がかかる。

森さんは「昨年から米不足が話題になっているが、私たち生産者は今後も栽培管理を万全にし、美味しいお米を消費者に届けたい」と話した。



5月末まで



田んぼに入る前に



田んぼに入った児童たち



「苗をありがとう」



みんなで田植え

笑顔あふれて

鵜川中央小学校
4年生41名参加



児童らを見送る青年部員



「田植え楽しい」



真剣に



5月
26日

「田植え最高!」



「田植え最高だッ」

青年部が小学生体験授業を支援

JAむかわ青年部19名は5月26日、鵜川中央小学校の田植え体験授業を支援した。

部員らは豊城地区で小学4年生41名を出迎えた。児童は3名の担任の先生に引率され、バスでほ場に到着し、田植えの服装に着替えた。

辻雄一青年部長は「楽しんで田植え体験をしてください。秋には皆さんと稲刈をしましょう」と挨拶した。児童の役に立てればと長年にわたる田んぼを提供している栗原真宜部員は、注意事項を話し、田植えの手ほどきをした。



1時間ほど児童は頑張つて、田は緑になった。田植えを終え児童代表の佐々木君は「田植えの準備をしてくれてありがとうございました。楽しかったのでまたやりたいです」と話した。愛澤さんは「忙しい中、時間を作っていただきありがとうございます。お米になって食べられるのが待ち遠しいです」と感想とお礼を述べた。

田植え終了後、青年部は児童の次の質問に答えた。Q「植えた品種と面積は」。A「約0・45畧に『ななつぼし』を植えました」。Q「何日で収穫ができますか」。A「約5ヶ月間です」などの質疑応答がなされた。



「2026年農協まつり」のお知らせ

と き 7月11日(土) 午後4時～8時
ところ JAむかわ 本部事務所駐車場

今年度も組合員及び職員との交流を図り、町民の皆様に農業、農協を応援して頂く「サポーターづくり運動」の取り組みとして農協まつりを開催いたします。ビアガーデン、歌謡ショー、子どもたちも楽しめる露天など。

詳細はお祭りのチラシでご案内します。
ご来場お待ちしております。



昨年の会場の様子

5月13日



重さを量りコンベアへ載せる

ほうれん草共同選果順調

安定供給で市場と信頼築く

出荷している。

共同選果場では、生産者が前日の夕方までにほうれん草の根切と下葉処理を行い、コンテナで共同選場に出荷し、一晩予冷する。翌日、午前8時から臨時職員11名が選別、150kgに計量してコンベアに置き、自動包装後、箱詰めする。

使用する袋は、ほうれん草の呼吸作用をコントロールし、採れたての味と栄養を保持する効果がある鮮度保持用包装資材を使用。袋詰めされたほうれん草は、箱詰め担当者が1箱(3・75袋)に25袋を詰め、規格別には積み重ねて共同選果作業が完了する。等級はA・B Aの2種類。

全生産者が出荷するようになると、共同選果場は午前8時から午後5時まで稼働し、1日400ケースを処理する。

パート職員でチーフの富士佐紀子さんは「食味と品質共に良いので、鵜川の美味しいほうれん草を皆さんに食べていただければ嬉しいです」と話した。

ほうれん草は、JAむかわの野菜の先がけとして始まり、55年目となる。継続安定生産を続け、現在蔬菜園芸振興会ほうれん草部会は43名。昨年の販売高は1億4000万円。共選場は10月下旬まで5ヶ月間稼働予定。

ほうれん草部会(田畑松夫部会長)はトレーサビリティ(栽培履歴)や残留農薬等のポジティブリスト制度の遵守を徹底している。

キラリ人物

(有)ファームクリエイイト社員

奥竜晟さん



おいしい牛乳や乳製品を届けたい 青年部でも活躍

■移住4年目

JAむかわの(有)ファームクリエイイトに就職した奥竜晟さん(26)は今年4年目を迎えた。酪農を経営する中田賢大社長の片腕として、また、むかわ町にとっても欠かせない存在となり、JA青年部や移住者の会で活躍している。

むかわ町は第1次産業の町。農業者の営みがあればJAも土地も守られるが、次世代を支える人がいなければ存

続は危うい。

■動物が大好き

竜晟さんは東京都町田市で、2男1女の長男に生まれた。両親は保育士で、共働きの家庭で育った。子供の頃から動物が大好きで、東京農業大学農学部厚木キャンパス動物科学科に進学。学生時代はコロナ禍で、オンラインやリモート授業が多く、不自由な学生生活を強いられたが、付属牧場で実技も習

得した。4年生になり、北海道別海町や中標津で酪農ヘルパーとして、毎日違う牧場で働いた。

就活のため3日間、(有)ファームクリエイイトで働き、中田社長と話をして気さくな人柄と人間としての魅力を感じ、むかわに就職することを決断した。

■人工受精師取得

入社しての仕事は、牛の給餌や堆肥出し、搾乳などの作業は機械で行い、勤務時間は午前6時から11時。午後は15時から18時迄で、変則的だが労働時間は他の業種と変わらない。

竜晟さんは何よりも牛と接することが好きで愛情を注いでいる。搾乳している80頭の牛の健康状態には特に気を配り、ストレスがたまらないようにしている。搾乳は16頭を一気に搾るパーラーシステムを導入。竜晟さんは機械整備もこなし、人工受精師の資格を取得した。酪農牛と飼育している黒毛和種の繁殖牛10頭の発情に合わせて人口受精をする。

■青年部で視野広がる

竜晟さんは「社長は話しやすい人なので仕事は楽しく、信頼され、評価さ

れるとやりがいがある」と笑顔がこぼれた。入社2年目に、中田社長に誘われ、JAむかわ青年部に加入した。社長は青年部の西地区の支部長を務め、青年部に欠かせない存在。

竜晟さんは、青年部での学習会や研修会、小学生の食農支援活動の田植えから稲刈り、脱穀作業などで子どもたちとふれあい、保育園でボランティア活動をして自分と重ね合わせ、両親の姿を思い出した。

盟友と話すことで、酪農以外の水稲や畑作、蔬菜園芸などさまざまな分野を知り視野が広がった。農協祭で盟友とともに焼きそばを作り、来場者と歓談する竜晟さんの笑顔が輝きを増した。

■町の役に立ちたい

「畑でトラクターに乗っていると手を振ってくれる人がある。優しい人達の住むこの町の役に立ちたい。尊敬できる中田社長のもとで今後も仕事を続け、安心安全でおいしい牛乳や乳製品を皆さんに届けられるよう頑張りたい」と話す。

竜晟さんは、法成寺の舁田那由多住職の交流の場「移住者の会」にも加入し、つながりの輪を広げている。7月のまふしい青空と海から吹く風が心地良い。竜晟さんはむかわの風になった。

4月7日

JA女性部 寄贈



鵜川厚生病院にカット布寄贈

鵜川厚生病院に介護用カット布

女性部は4月7日、関真紀部長と奥野恵美子、椿文子両副部長がむかわ町鵜川厚生病院を訪れ、介護用カット布を寄贈した。

厚生病院では「女性部の方々が作られた柔らかい綿の布は大変役立っています。カット布は介護士や介護助手の必需品で、お風呂やおむつ交換、洗面所などの清掃に使用するので長年の寄贈に感謝しています」と長年の寄贈にお礼を述べた。



社会福祉協議会へリングプル寄贈

社会福祉協議会にはリングプル

同じく社会福祉協議会にはリングプルを寄贈した。社会福祉協議会では木澤省司会長が「皆さんの取り組みに感謝とお礼を申し上げます」と話した。

5月22日

事務所前の花壇に花植え
街を彩り 元気と癒しを

女性部は5月22日、JA本部事務所前の花壇に花を植えた。

女性部役員は定植前に彩りと全体のバランスを考え、一鉢ずつ花を植えた。植えた花は「ペコニア」「マリーゴールド」「サルビア」「ブルーサルビア」の4種類。

関真紀部長は「花壇はJAの来客や街中を通る人たちの心を和ませてきました。毎年楽しみと言われて、花壇の花植えは私たちも楽しい行事と話した。

女性部は、長く咲き続ける花を植えて晩秋まで咲かせ、JA本部事務所の華やかな彩りを絶やさないようにしている。また、兎竜のプランターにも花を植えて2つの玄関口に置いた。女性部は、環境美



花壇に花を植える女性部員ら



満開を迎えたチューリップの元で記念撮影

JA女性部

今年も咲いた砺波市のチューリップ
思いやりの心忘れずに

むかわ町の姉妹都市、富山県砺波市から2018年、JAむかわ女性部に震災見舞としてチューリップの球根が贈られてきた。震度6強の胆振東部地震から8年間、温かい善意の復興応援を忘れずに、女性部は開花後掘り取りし、秋に植えた。

今年は4月下旬に蕾をふくらませ、5月に開花した。花壇は鵜川中央小学校近くの横断歩道の左右にあり、毎日児童を見守り、街中を歩く人や車中の人たちの心を癒やしている。例年になく彩り鮮やかに咲いたチューリップに足を止めて観賞し、写真撮影をする人もいる。

女性部は花壇に看板を作成し、「元気をありがとう」と寄贈先の富山県花弁球根協同組合石田智久理事の名前を記載した。震災復興後もコロナ禍や世界の紛争は留まることなく続いているが、善意の花はみんなを優

しい思いやりの気持ちにさせてくれる。2020年、コロナ禍で大変な砺波の球根農家にわずかでも恩返ししたいと、富山県花弁球根農協協同組合から800球を購入し、寄贈の球根と共に大切に管理してきた。

高玉千代子理事は「砺波市から贈られてきたチューリップを育て、毎年元気を頂きます。今年は去年よりも早くチューリップが開花し、長い間花を楽しむことができます。チューリップがつかないでくださった縁を大切に、思いやりの心を忘れない、いつの日か恩返しに砺波を訪れたい」と話した。

**JAむかわ
ホームページ**

**令和8年7月1日
リニューアルオープン**

7月1日からJAむかわのホームページが新しくなります。

4月20日

実習は楽しいです。福井さん(右)と田尾さん(左)



JAむかわは今年度採用のホクレン職員4名を、4月20日から5月1日迄受け入れ、実習体験を行った。実習生は福井芽衣香さん、田尾美涼さん、石田拓さん、吉津快音さんの4名。

初日はJAの概要を学び、翌日から農業振興部で補助金申請に係る図面確認の仕事を行った。

その後農家実習に入り、JA理事や畜産農家で、餌やりや牛舎の清掃などの実習で汗を流した。農家実習は4日間と短期間だったが、田尾さんは農作業をするのは初体験ながらも奮闘した。

4月23日と24日の両日は、(株)花岡FRDファーム(内海宏昭代表)宅で水稻の播種作業を行った。福井さんは播種機から流れてくるトレーを取って田尾さんに手渡し、トラックに積み込む為の作業を手際よくこなした。

4人は春レタスや花卉の受入などを行い、JAの販売や生産業務を体験した。

北見市出身の田尾さんは小樽商科大学経済学科で4年間学んだ。農業実習は初めてで、実習を終え「農業は想像以上に人手が必要だった。大変だったが楽しく良い体験ができました」と感想を述べた。

岐阜県出身の福井さんは、酪農学園大学で4年間学び、農家実習のアルバイトも体験している。「土に触れて作業するのは好きで、まだいろんなことを体験してみたい」と話した。

4人は一応に「JAや農家組合員が



苗の受け渡し作業をする福井さんと田尾さん

やっていることをサポートさせていた。だいた研修に感謝しており、農家組合員や職員の方々もやさしく対応してくださり、今後の仕事に活かしていきたい」と話した。

4人にとってJAむかわでの研修は忘れられない貴重な体験となった。この研修で組合員とJA、ホクレンのつながりを理解し、実践の職場でも貴重な体験を活かし、農や食で社会貢献をしていきたいと口を揃えた。

ホクレン新入職員実習受け入れ 体験を新職場の仕事につなぐ

JAむかわは5月20日、鶴川中央小学校6年生5名を受け入れし、JAの各施設を案内した。

児童は針谷康彦教諭に引率され、歩いてJAに来所。村椿太俊営農部長がJAの各施設を案内して課外授業を行った。

最初に、花卉共同選花場を見学。選花場ではスターチスの選果と箱詰めについて説明、選花後は予冷施設内で出荷日まで保管することなどを説明した。

次に、野菜の集出荷場でほうれん草の共同選果を見学した。この日は、11名のパートナーが、下葉処理したほ



質問をしメモを取る児童ら

中央小6年 JAむかわ施設見学 地域の農業を学ぶ

うれん草の重さをはかりコンベアに乗せ、自動袋詰めされる工程を見学した。施設内には、ハウスで栽培したキャベツが出荷され、児童は箱を持って重さを体感した。集出荷場には、春レタスやキャベツなど季節の収穫物が順次入荷され、コンテナ車などが出入りする。また、忌避剤を使用し、施設内に鳩が入らないようにしている。さらに、トマトの共同選果場に足を運び、施設内を見学した。7月中旬からトマトの出荷が始まり4レーンが稼働する。

見学後、児童は事前に調べてきたことを村椿部長に質問した。

Q「鶴川ではどんな農畜産物の種類がありますか」
A「JAむかわではお米や麦、大豆などの農産物と、畜産では乳牛と和牛、野菜ではブロッコリーやトマト、レタス、ほうれん草、ジャガイモ、カボチャなど10種類以上と花卉などがあります」
Q「野菜が高くなるのはいつですか」
A「ものが少なくなる時で、それぞれ収穫時によって異なります」
Q「一番忙しい時は」
A「7月から10月で収穫物が増える時です」
Q「1年の売り上げは」
A「昨年は73億円で、お米の価格が

児童は見学したことや質問の答えをその都度記録した。児童は「たくさんのことを教えてもらいありがとうございます」とお礼を述べて帰校した。

村椿部長は「次代を担う子どもたちに農業のことを知ってもらうことは大切なことなので、今後も協力し、支援していきたい」と話した。

高くなったことや野菜が増えたので過去最高額となりました」
Q「施設管理で大変なことは」
A「温度や湿度を管理し、品質を保つことです」
Q「農業で一番大変なことは」
A「天候に左右されることです」
Q「仕事で楽しいことは」
A「農家の人が笑顔になってくれることです」



キャベツの箱を持って重さを確認

5月20日

5月25日

選花する従業員の皆さん

スターチス共同選花最盛期



週900ケースを全国市場に出荷

れ、臨時職員ら16名で、午前8時から午後5時頃まで選花作業を行っていた。選花場では余分な葉や長さを揃え、規格や品質を統一し、週3回の出荷日には日量300ケースを「むかわの夢シリーズ」として全国16の市場に出荷している。

スターチス部会では市場のニーズに応え、安定供給を継続し、信頼関係を築いている。規格は特2L(1箱80本)、2L、L(1箱100本)、M(1箱150本)、S(1箱200本)の5段階。検品は生産者全員で行い、厳選した

5月25日からスターチスの共同選花が始まり、鶴川花き生産組合のスターチスが最盛期を迎えた。

共同選花場には、生産者が採花した花が月曜日から金曜日まで持ち込ま

製品を出荷。ポリウムがあり日持ちのするオリジンバイオレットを主に、市場や消費者の評価も高い。種苗メーカーの住化アグリテック(株)の品種はポリウムがあり、退色遅く鶴川に

適している。鶴川花き生産組合は種苗の品種試験も積極的に行い、流行の先取りを実践している。

現在は9戸の出荷だが、7月中旬から8月のお盆には全11戸が出荷し、最盛期を迎える。

スターチスほ場巡回
しっかり管理 生育順調

種苗会社社員の生育状況説明を聞く部会員

JAむかわ花き生産組合スターチス・リシアンサス部会は6月11日、8部会員の栽培ほ場を巡回し、栽培管理状態や新品種の生育状況を観察した。巡回には、住化アグリテック(株)の伊藤瑞樹さんと福花園種苗(株)の香川正美さんが同行した。

栽培軒数は11戸だが作付面積は全道上位に位置している。部会では全員のは場を巡回し、市場や消費者が求める質の高い商品づくりに努めている。さらに新品種を試作して消費者のニーズに応えられるよう、花市場など情報交換し、品種の更新を行っている。

6棟のスターチスを栽培する辻雄一さんでは、4月にハウスほ場に定植した福花園のキノブルームやTSの金峰などの生育状態や防除管理などを視

社会福祉協議会に介護用品贈呈

地域貢献事業13年目に



贈呈式出席者で記念撮影

会長に目録を手渡した。

贈呈式で長門組合長は「JAの活動は町民のみなさまのおかげで成り立っています。町民が必要とする介護用品を選びましたので有効にご活用ください」と話した。

木澤会長は「長年に渡り大変貴重な介護用品を寄贈して頂き、感謝とお礼を申し上げます。有効に活用させて頂きます」と返答した。

むかわ町栃丸直土町長が来賓として出席し、「介護用品が必要な高齢者が増えています。JAむかわの長年の取り組みは町民の健康寿命に貢献しており、感謝申し上げます」と述べた。

協議会は寄贈された介護用品を希望する町民に最長1ヶ月を限度として無償貸出する。

JAむかわは2014年から社会貢献事業活動を行い、介護用品の車椅子や歩行器など需要の高い品々を贈呈してきた。

JAむかわ緊急時のご連絡先

※業務時間内(平日9時～17時)には当JAにご連絡ください

●お客様の事故トラブル

☎ 0120-258-931

(JA共済事故受付センター)

●お車のレッカー・ロードサービス

☎ 0120-063-931

(JA共済サポートセンター)

●キャッシュカードや通帳の紛失・盗難

☎ 0120-944-904

(JAバンクキャッシュカード紛失共同受付センター)

●JAクレジットカードの紛失・盗難

☎ 0120-159-674

(三菱UFJニコス(株)盗難紛失受付センター)

※JAカード一体型の盗難・紛失においては両方にご連絡ください。

察した。9棟のハウスでスターチスを栽培する森和也さんでは、現在収穫しているほ場を視察した。順次部会員のほ場を巡回し、栽培途中経過や採花状態等をつぶさに視察して、同行した種苗会社の社員からアドバイスを受けた。

住化アグリテック(株)の伊藤さんは「むかわは大事な産地で、当社のオリジンバイオレットを一株一株しっかりと栽培管理し、品種の特性を引き出していただいている」と感謝した。

清野雅之部会長は「新品種試験を行って、鶴川の気候風土に合い、消費

者受けする品種を選定している。巡回することで栽培技術を高め、病害虫や規格、適期採花、出荷などに最善を尽くしていきたい。また、予冷して花持ちや色あい、色の濃さなどベストの状態で出荷していく」と説明し、「気象条件や品種により栽培方法は異なるので、常に挑戦する気持ちで部会員がひとつになり、良質の品物を安定供給していきたい」と力を込めた。

むかわのスターチスはブランド名「HOKKAIDO MUKAWA 夢シリーズ むかわの花」で全国の花き市場に出荷して高い評価を得ている。

6月9日

6月9日、むかわ町四季の館でむかわ町社会福祉協議会に介護用品を贈呈した。社会貢献活動事業の一環として地域社会と共に歩むJAむかわの取り組みは今年13年目となった。地域住民の期待も大きく、今年も協議会のニーズに応え、歩行器1台と手すりたちあつぷ4台を寄贈した。四季の館研修室で贈呈式が行われ、長門宏市組合長が町社協の木澤省司



みんなで田植え楽しかったよ！（2026年5月実施）

編集後記

☆田植えが終わり田は緑の絨毯に変わった。青空を映し輝く田は美しい。今年は雨不足に近い状況だが、大きな災害もなく作物は天地の恵みを受けて生育している。JAむかわ蔬菜販売額の半分近くを占めるブロッコリーの収穫が6月8日から始まった。☆私は疲れたら体を休めますが、作物は休まず生長し続け、実を稔らせ、天変地異に遭っても必死で子孫を残そうとしている姿に感銘し感動している。☆人間はAIなどを発明して常に進化を遂げているが、逆に世界の紛争はたえることがない。人間にとって本当に大切なことは2度と戦争をせずに平和な社会がつづくことではないでしょうか。殺し殺され、憎しみと悲しみの連鎖は感情を持つ人間の愚かしさだ。許し合い助け合いがなぜできないのか。地球上の生きとし生けるものの未来を持続させるにはどうすればいいのかを考え、毎朝祈っています。さらに、飢えに苦しむ人達を救うことができたらどんなに素晴らしいかとも思います。現在日本の食糧自給率は38%です。食糧の輸入をストップされれば死活問題です。地球上では約8億もの人が飢えて苦しんでいるのが現実です。☆イランとイスラエル、アメリカによる紛争。イランによりホルムズ海峡が閉鎖され石油が入ってこない状況が続く、国内で石油を原料とする製品が不足し、さまざまな分野で困窮しています。それに加えて諸物価の高騰はとどまることがありません。豊かな自然に恵まれている日本ですが、超エルニーニョ現象は温暖化を加速させ、近年頻繁に起こる災害の脅威は計り知れません。暗い厳しいことばかりを述べましたが、取材を通してみんな元気で頑張っています。今後、むかわに移住してきた人達を順次取り上げますので応援よろしくお願いします。夏の青空に沸き立つ入道雲のように今月も元気に過ごしましょう。（H・N）

正組会員（ご家族）と元職員の方々が逝去されました。

謹んでご冥福をお祈り致します。

おくやみ	地区名	氏名	享年	逝去月日
	宮戸	山下 与造 さん	78 歳	5 月 10 日
	キキンニ	宮下 重嗣 さん	77 歳	5 月 11 日
	生田	松浦 繁雄 さん	82 歳	6 月 5 日

2026年5月号の表紙を飾った人たち

			横山 栄枝（なよ）さん（お父さんは正法さん）
			西村 律さん（お父さんは昭人さん）
			加藤 柚奈さん（お父さんは翼さん）
			山下 凌駕さん（お父さんは孝弘さん）
			貞野 楓汰さん（お父さんは春樹さん）
			服部 奈さん（お父さんは展和さん）
			細川 南那美さん（お父さんは知希さん）
			萩原 吏都（りっ）さん（お父さんはは主税さん）
			辻 伊織さん（お父さんは雄一さん）
			十文字 優希菜さん（お父さんは降雪さん）
			菊池 杏奈さん（お父さんは学さん）
			佐々木 颯土さん（お父さんは理人さん）
			新井 田 卯依さん（お父さんは知輝さん）
			齋藤 晴慎さん（お父さんは政和さん）
			鈴木 加代美さん（JAむかわ農業振興部職員）

【訂正】5月号令和8年度団体役員の中で、胆振東部軽種馬振興会の理事「平岡茂樹」さんは「平岡裕也」さんの誤りでした。

＝組合員の結集報告＝
（6月末現在）

正組会員 317 人、准組会員 914 人、計 1,231 人
出資金 11 億 1 千万円、貯金高 225 億 5 千万円、販売高 9 億 974 万円

JA MUKAWA